

け や き

人は人の中で人となる

大仙市教育委員会 教育長 三 浦 憲 一

新生大仙市は誕生してから5年目を迎えました。平成19年に、「新しい時代の学校教育だいせんビジョン」を作成し、教育目標に「生きて働く知恵を育み、創造力にあふれる人づくり」を掲げ、「共（ともに）」「創（つくる）」「考（かんがえる）」「開（ひらく）」をキーワードに、それぞれの地域の特色を生かしながら、大仙市立の学校として、共に歩んできていただきました。

児童・生徒の活躍はもちろんのこと、教職員の皆さん方やPTA、地域住民の努力の結晶と言ってもよいと思いますが、各県、各市から教育視察に訪れる教育風土を誇りにさえ思うところです。今年度も全国から20回、約190名（東京、神奈川、京都、兵庫、福岡、大分、宮城、愛知県犬山市等）の議員、教育委員、教育委員会指導主事、校長や教員等が来られました。また、韓国国立教育開発院の室長さんも訪問され、情報交換することができました。訪問を受け入れてくれた各学校や議会、教育委員会事務局にも感謝したいと思います。

ふり返った時、大仙にとって何よりの収穫は、お土産のお菓子ではなく、鋭い視線を浴びながらも、回数を重ねるごとに笑顔で堂々とあいさつや意見交換のできる児童・生徒の姿や、共通理解しながら常日頃の積み重ねを大切にした授業づくりに取り組む教職員の姿を再確認できたことでした。

国策については、情報交換を通してどの県市も共通して実践しております。しかし、地域の特色を發揮するための実態に応じた重点施策は変わってきます。都市部では、住民の多様性や若手教職員増からくる一体感の醸成不足という一面も、公立学校に影響を与えているようです。また、地域的には同条件の県市では、学校の発信力や交流不足、支援や連携体制が整わないという課題を抱えているようです。今回の視察受け入れは、絶えず相手から学んで教えるという基本姿勢を再確認すると共に、自分たちを改めて見直すよい機会だと思っております。学校、市教委として、情報収集や現状分析、

点検を怠りなく、児童生徒の将来への自立に向けた支援という次への課題も忘れてはいけません。

国際的にも、家庭や学校、地域でも、「そこだけ」「それだけ」の世界では危険が伴います。「自分だけ」でも生きていけない時代です。それぞれのかかわり合いの中で自分をどう發揮していくかが大切です。各学校でも、組織をスリム化しプロジェクトチームをつくり、学力や体力も含めた「人間力」や、「かかわりあいと自立」をテーマにした学校が多く見られます。市のPTA 連合会や学校地域支援本部を通しながら、行政や地域住民、各種団体の専門家とも結びついており、積極的に連携を取ってくれております。さらに、環境問題に取り組む中学生サミットや小学生の挨拶運動なども地域に輪を広げつつあります。

よく「環境は変化するもの」と言われますが、大仙にはすばらしい自然環境があり、社会環境もよいものは継続して引き継ぎ、新しいものも積極的に受け入れております。教職員や保護者、地域住民も、お互いに持っている力を發揮し「活かし合う」という体制づくりを一層築きたいものです。そして、I（私）と共に、WE（私たち）という主語も多く使い、児童・生徒に還元できる、あたたかい学校や地域を目指したいものです。



